

4月10日(月) 本校体育館にて入学式が行われました。保護者の皆さまにもご臨席をいただき、温かいながらも厳粛な雰囲気の中、320名の新入生が入学を許可されました。



#### 令和5年度 入学式式辞

例年以上に早い春の訪れに手稲山の残雪も少しずつ消え始め、春の息吹を感じる今日の佳き日に、無限の可能性を秘めた320名の新入生を迎えることとなりました。

本日、令和5年度北海道札幌手稲高等学校入学式を挙げるにあたり、本校の教育活動に多大なるご支援をいただいております、PTA会長 飯尾 亜紀仁様、稲心会会長 福原 克興様、同窓会副会長谷川 洋子様、後援会会長 田中 正浩様をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。また、保護者の方々のご臨席も従来どおりにも戻った形で入学式を挙行できることにこの上ない喜びを感じております。

さて、新入生の皆さん入学おめでとうございます。在校生はもとより、私たち教職員一同、心から歓迎します。

本校は、昭和49年に、「手稲地区に若人の大学進学の実を叶えられる進学校を」という地域住民の熱い期待を受け開校し、来年度で50周年を迎える高校です。開校当初は、札幌北高等学校の敷地内のプレハブの仮校舎から学校の歴史は出発し、現在の校舎になったのは、その2年後の昭和51年です。以来、同窓生の頑張りや保護者、地域の皆様方の温かいご支援、歴任教職員の熱い指導に支えられ「地域になくなくてはならない進学校」に成長しました。私も本校7期生の皆さんの先輩です。母校に帰り仕事ができることに緊張と喜びを同時に感じています。50期生の皆さんは、先輩たちが築いた良き伝統のバトンを引き継ぎ、皆さん手で100周年へのスタートの年次として、さらなる発展と新たな手稲高の伝統を築いてほしいと思います。みなさんは、自分でも気づけていない未知なる能力に溢れています。この手稲高校の様々な教育活動や人や事・場面との出会いを十分に活用して、新たな自分を発見してほしいと思います。

そこで、高校生のスタートを切る皆さんにお願いがあります。それは、リスペクトの精神を大切にしてほしいということです。リスペクト、つまり尊重すること、敬意を払うことです。今、日本や世界ではこの尊重・リスペクトの欠如による様々な問題が起こっています。皆さんには、次の3つのリスペクトを大切にしてほしいと思います。

一つ目は、「自分に対するリスペクト」です。何かうまくいけば、自分をほめましょう。うまくいかないことがあっても、自分を見捨ててはいけません。失敗しても次があります。自分を大事にしてください。

二つ目は、「他者へのリスペクト」です。人との出会いが人生をつくります。どんな人も、たとえ、自分と感じ方や考え方が異なっていたとしても、自分と同じようかけがえのない存在です。それぞれの思い、苦労、知恵があります。世の中には、人を馬鹿にしたり、攻撃したりするニュースがあります。みなさんは、他人をリスペクトしてほしいと思います。そのことができれば、人間関係に起因するトラブルは小さくなりますし、「いじめ」は起きないはずです。

三つめは、「皆さんを取り巻く環境に対するリスペクト」です。私たちは自然環境の中で生きています。また、人が作る社会の中で生きています。自然には、気候変動、自然災害、資源の枯渇などグローバルで重大な問題がありますが、私たちにもできることがあるはずで。また、社会についても、大小こそあれ様々な争いごと、人口減少や経済の衰退、福祉の問題など様々な課題があります。これらの問題は簡単に解決できません。しかし、私たちも社会の一員です。一人一人はちっぽけな存在かもしれませんが、すべてその一人から始まります。より良い社会を作ってゆくために社会の様々な問題や課題を自分事として考える習慣をつけてほしいと思います。

この3つリスペクトを大切に、3年間を過ごすことができればきっと楽しく、自分の成長が実感できる高校生活になるでしょう。

保護者の皆様、改めまして、お子様のご入学、誠におめでとうございます。高校時代は、お子様が将来の日本を支える有益な社会人になるため、これまで以上に多くの知識を身に付け、経験を重ね、自ら考え、他と協調・協働し様々な課題に取り組み、解決していく姿勢と力を養う鍛錬の時期です。私たち教職員一同、我が子を育てる思いで、愛情を込め、時には厳しさを持ってお子様の成長に力を尽くして参ります。何とぞ、皆様の深いご理解と温かいご協力をお願い申し上げます。

結びに、新入生の皆さんの今後の成長と、それぞれの未来への飛躍を期待して、校長の式辞とします。

令和5年4月10日

北海道札幌手稲高等学校長 久保 肇